
書 評

山上徹著『交通サービスと港』

大 浜 慶 和

(イカリ事業グループ)

1. はじめに

現代社会において交通・港というものが、産業経済の発展の基盤であり、市民生活の形成にとって欠かすことのできない基盤となっていることは周知の事実であろう。

交通の発達、古代ギリシャ時代、ローマ帝国の時代、文芸復興の時代、産業革命の時代等、いつの時代においても人類文化の飛躍的發展段階には、どこの国の例でも交通の発展が伴っているものである。確かに初期資本主義時代から産業資本主義時代にかけては、欧州を先鞭として交通革命が出現するのであるが、とくに19世紀においては鉄道、汽船といった交通手段が脚光をあびた。また今日、自動車の普及やさらに時間的価値の上昇等により、航空輸送の需要が上昇傾向にあると言えよう。

ここに紹介する文献『交通サービスと港』では、交通の発展において同種、異種交通手段が接合する場所、即ちステーション立地の役割は非常に重要になり、交通手段ばかりでなく地域経済と国民経済に大きな影響力を及ぼすことを認識する必要性が高くなっていることと、昨今のように流動的な環境下にある交通と港の問題を主体的に考える時期が到来していることを論じるものである。

著者、山上徹は日本大学商学部教授として、交通・港の問題を研究され、独自のアプローチをもって、数多くの著書・論文、そして研究発表等を世に問われている。

本書の刊行には、既に公表された数多くの論文等をもって編集されており、外部環境の変化と港の内部のあり方については、とくに交通サービスを提供している側のあり方について理論構築がなされている。現在、規制緩和下のもとに厳しい競争場裡となっている交通業界、つまり交通サービスを提供している側、とくに港湾管理者のあ

り方を提起し、弾力的な組織体を形成し活性化の必要についても論じ、体系化を試みられている。次にその概要について述べてみよう。

2. 本書の構成と概要

本書は全篇3部16章をもって構成されており、各部の主題は次の通りである。

第1部 交通サービスの特性と立地

第1章 交通現象の概念と特性

第2章 交通経営サービスの特性と生産要因

第3章 交通生産要因の立地

第2部 海港と交通サービス

第4章 海港の意義と交通サービス

第5章 海港とステーション・サービス

第6章 海港交通サービス需要

第7章 技術革新と物流

第8章 わが国海港の形成

第9章 わが国の港の福利厚生事業

第10章 わが国港湾行政の特性と問題

第3部 外国諸港の経営・開発

第11章 ポート・オーソリティ経営の販売促進

第12章 コンテナ港の発達サイクル

第13章 北米コンテナ港の発達サイクル

第14章 中国のコンテナ港の発達サイクル

第15章 中国の海港と開発と対外貿易

第16章 バンクーバー港の発達と問題

第1部においては、交通サービスの基本的理解に力点が置かれている。即時財といわれる交通サービスや各種の交通手段の基本的な特性、交通論としての研究対象、交通の進歩と経済発展との関連性について論述している。つまり交通の進歩は、われわ

れ経済、社会の物理的な隔たりを克服し、金銭的節約を可能にしてくれる。したがって各種の交通手段の属性に関する認識の必要性を強調されている。また交通手段に関しては、道路、運搬具、動力という3要素に、ステーションを独立させて、4つの生産要素があることを特記している。これにより実際の場地的変更を供する交通サービスはこれら4つの生産要素と人間労働力とを結合してつくり出されるサービスを交通サービスとして考えている。とくに、立地論の立場より近年、技術革新の進行に伴い交通手段の中でもステーション機能は最も重要な要素であり、ステーションは機能的にも空間的にも、複雑広範となり、従来のような単なる通路の1部と包括的に考えるのではなくステーションは、交通の基地として、独立の交通サービスを生産する空間であり、立地問題上からも重要な生産要因であるとしている。

したがって著者は、海港・空港等をすべてステーションとして捉え理論を展開している。

第2部においては、港の管理主体はだれであるべきか、地域社会に貢献するためにも港が独立の経営体としての必要性を主張し、各種のサービス生産ができるような体制を港の管理者が、確立すべきであることを強調している。

今日、わが国の港の特殊性のみに目を向けるだけでなく、広く海外の港の開発動向、コンテナの普及による港の競争と同時に、技術革新の発展における交通の結節点としての港の機能は、生産と消費と結ぶ独立した経済単位として考え、海港のステーション交通経済を対象とされるべきであるという考え方にに基づき、単なる他の交通経済部門への補助的な役割ばかりが、強調されるべきでなく、結合の場（Junction）こそが中心的な基地空間として考察している。

わが国における港湾の管理は、昭和24年の「港湾法」の制定により地方自治体へ管理主体が移行されたのであった。

それにより現在では、多くの港においては都市機能、つまり親水化、レクリエーション施設等が検討され、港の機能が多様化されつつある。

しかしながら、このような施設を配置するだけで、問題は解決するものでなく、何としても、港の所在の地方自治体の体質、民主化の確保や自治能力・権限の拡大確立といった制度的な体制を改善することが必要である。また「所有の目的に応じた管理」

から効率を重視し、「利用の目的に応じた管理」へ転換する必要性を強調している。

要するに地方自治体の1部局としてよりも独立経営体としての港湾管理者が最高の経営機能に接する経営管理の立場を確立することの必要性を論じている。

第3部では外国諸港の経営・開発について、とくにより広く海外の港の開発動向、コンテナの普及による港間競争について論じている。またポート・オーソリティの発祥地イギリスにおけるポート・オーソリティの発展過程を中心に経営形態の特徴、経営の問題点を考察し、先発港と後発港との国際間比較を数量的組織的側面から分析を試み、ポート・オーソリティのあり方について論じている。そして、国際的競争場裡にある欧米諸港のコンテナ埠頭の発達サイクル・モデルを構築し、規則緩和が進展してきている欧州・北米・カナダ・中国諸港の開発状況、コンテナ埠頭の発達サイクルについて考察を進めている。

とくに、各個別港には、歴史的、地理的、政治的背景等がかなり相違していることを前提にしながらも、資本主義、社会主義経済社会の諸国の港では、長期的視点に基づきポート・オーソリティは経営戦略を考慮すべきであるとしている。

その中で今後、ポート・オーソリティは国際競争において共通の課題となっている港の開発、販売促進の必要性が重要となると強調し、港の利用者のニーズに柔軟に対応できるシステム等を確立することを提起している。

3. おわりに

以上のように本書は、港の経済現象が複雑・多岐であるが、交通サービスを提供しているステーションとしての港の機能について論じている。とくに科学としての概念規定から始まって、交通サービスの観点から港の今日の問題を論じつつ、国内ばかりでなく、ポート・オーソリティの経営内容を紹介し、また諸外国港の経営特性を分析し、交通手段と経済発展との密接な関連性を論じ、さらに中国の港の開発についての詳細な分析があるが、それだけでも本書の価値は高いものと考えられる。そして港間競争の展開に対応すべきその販売促進策についても論述するものであった。そこで著者は、次のように主張していた。

つまり、「そのような状況下にあるポート・オーソリティとしては、地域的独占を単純には享受できなく、積極的に一定の市場に対応しようとして行かねばならず、そのためにはおしなべて『製品差別化』(product differentiation policy)や技術革新を積極的に導入し、『市場細分化政策』(market segmentation policy)を各港において検討することにより、他の港とのサービスの質的競争の展開を推進することが必要不可欠である」(152頁)と強調されている。

ある港の機能と他の港のサービスの差別化には、港自体がかなり地域性を持つかがり、地理的に既に、有利な港は、他港と差別化の推進は基本的に可能である。しかし本来、そのような立地条件の不利な港が、差別化の販売促進策を実施しようとしても、海側・陸側のアクセス、施設の近代化には、多額の投資が前提となるが、各港が現実には差別策を実施することが、基本的に可能なものであろうかとの疑問をもつ。

また市場細分化にしても、低成長の今日、各種の専門埠頭の建設への投資には、リスクが高くなり、結局、時代的ニーズのあるコンテナ埠頭建設が各港の活性化の方法と意志決定がなされるのであって、著者の言うように、かならずしも細分化が港の活性化とならない場合も多く、やはりリスクを伴うと考えられる。長期的に考えて、港は、まさに産業構造の変化を如実にあらわす鏡であり、理論的には、以上の政策の実施については可能としても、インフラとしての港の機能の投資は、実際の意志決定では消極的となり、革新化はかなり困難なことであろう。

しかし著者の港間競争を前提とした港の販売促進の時期は、わが国にも今後、想定でき、世界経済の低迷、産業構造の変化の中にあっては、比較的早い時期に直面する事態となるかもしれない。そのような意味で、交通サービスの基本的特徴、港の経営のあり方、世界のコンテナ港の趨勢を理論的に分析してある本書は、港湾の研究者はもちろん、港湾産業の関係者に多くの示唆に富む理論的方向づけを提起するものであり、一読を薦めるものである。

(成山堂書店 A 5 判 236頁 2,800円)